



# 九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第19号  
2009年1月発行・東久留米「九条の会」  
代表者 古田足日・連絡先 鈴木TEL 042-473-9489  
<http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/>

## 歴史の解釈と 歴史の改竄(かいざん)

山口 源治郎  
(世話人・上の原在住)

12月8日(日米開戦＝真珠湾攻撃の日)、アパホテルグループが募集した「真の近現代史観」をテーマとする懸賞論文の授賞式が行われる。最優秀賞には航空自衛隊幕僚長(当時)の田母神俊雄氏の論文「日本は侵略国家であったか」が選ばれた。

先日この受賞論文を読んでみた。自衛隊制服組の最高位にある者の論文なので、ある種の期待をもって読んでみた。しかしお世辞にも最優秀とはおもえない代物であった。日本は蒋介石にだまされた「被害者」だ。朝鮮は日本の植民地になって「圧政から解放され」た。真珠湾攻撃は「畏」にはめられた結果だ、

などの主張が続く。

職業柄、自ら論文を書き、学生の論文指導も行っているが、論文とは証拠に基づいて、論理的な手続きを踏まえ、事実や関係性を証明する文章をいうのではない。単なる意見の表明は論文ではない。すでに多くの識者が指摘しているように、その基本的なことがこの田母神氏の「論文」には欠けている。

### 私の主張

歴史にはさまざまな解釈がありうる。基礎とした史料や研究者の視点や理論的立場の違いなど、違いの由来はさまざまである。そこが歴史解釈のおもしろさでもある。しかし、こうあって欲しいという願望や妄想から歴史を勝手に「解釈」したり、事実を無視したり、事実間の関係を無視し都合のいい事実だけを並べ、歪めて描いたりするこ

とは許されない。それは歴史の改竄(かいざん)である。田母神氏の「論文」はこの類のものである。

しかし今回の事件で、自衛隊制服組の最高位の職にある者が、この程度の知性と歴史認識しか持ち合わせていないのかと、そのレベルの低さに愕然とさせられるとともに、こんな人物を、自衛隊制服組の最高位に平然と任命している政府・自衛隊の危険な体質に不審の念を抱かせるものとなった。改めて、私たちの監視の目をゆるめてはならないと感じる。



毎月9日は「9の日宣伝」  
ごいっしょに参加しませんか!  
午後4時～5時・東久留米駅  
頭で「憲法九条を「守り」「広  
げる」宣伝をしています。

## 東久留米九条の会 第2回交流会開かれる



保育九条の会から大型紙芝居の披露

10月26日(日) 成美教育会館において、東久留米九条の会第2回交流会が開かれました。会を代表して古田代表があいさつ。「3年前の設立のときの一つの目標であった市内全域に会をといて目標が達成され、ひとつの折り返し点にきた。」とのべ、今後も長期的な腰を据えたとりくみを」と訴えました。

そのあと三多摩法律事務所 務所の秋野弁護士が「イラク派兵違憲判決と自衛隊海外派兵恒久法」と題して記念講演をおこないました。詳細な内容でしたが、わかりやすく、確信のもてるお話をしました。

休憩のあと鈴木事務局長から、経過報告と今後の提案の報告がありました。「地域、職域、キリスト者などを含めた合計13団体となった」こと。また今後のとりくみとして「世話人会のとき実務的な話だけではなく、呼びかけ人、世話人にミニ講演を行なってもらって、お互いをもっとよく知り合い長期的なとりくみとすること」「九条の会として戦争体験聞き書きプロジェクトを行う」事などが新たな提案として報告されました。

続いて各会から報告・発言がありました。保育九条の会からは大型紙芝居も披露され、和やかな雰囲気となりました。

(鈴木)

## 九条の会第3回 全国交流集会

11月24日、日本教育会館で第3回全国交流集会が行われ、全国から926人が参加しました。全国の「九条の会」が約7300、この1年で約500増えたことが報告されました。

よびかけ人のうち大江健三郎さん、奥平康弘さん、澤地久枝さん、鶴見俊介さんから『日常生活、そして生きていく規範としての「九条の会」があること』『田母神論文は論文には値しないが、その政治的背景、意図は多くの側面があり、マスメディアに格好の話題を提供し、今後の改憲の動き、国民投票法との関わりが出てくること』『わたしたちが変われば、世の中が変わることを



交流集会の全体会で呼びかけ人(壇上)のスピーチに聞き入る参加者

「九条の会」の広がりで確信となった。自分たちの生き方だけでなく、次世代にどういいう世の中を残すことができるのか、今後の課題』などのあいさつがありました。

特別報告は、「非暴力による問題解決は可能だ」の信念で活動している、日本国際ボランティアセンターの谷山博史さんから、「カシミア、アフガニスタンなどの紛争地でおこなっているボランティア活動について」のお話がありました。

この後、全体会では5つの「会」の活動報告、また、教育関係者を中心に「教育・子育て九条の会」が、教育と子育てにこそ憲法が大事、旧教育基本法の精神を生かしたいと10月に発表した報告がありました。

(大野)

# 「地域九条の会」の取り組み

## 「西部九条の会」連続講座 「語りあおう 今と憲法」

「戦争はなんでやるの？」  
「宣戦布告ってどうやってやるの？」

11月16日(日)、西部地域センターにて、連続講座「語りあおう 今と憲法」の第2回「平和のつくりかた」を開き、31人が参加して語りあいました。  
冒頭、「映像の世紀・世界は地獄を見た」についてのダイジェスト映像を上映、いま、田母神論文にみられる「平和を脅かす」問題など、平和を語りあうことの意味を参加者で確認しました。

内容は、参加者に配布された「戦争のつくりかた」(マガジンハウス社)をよみ、各ページについてリポーターが報告を行ない、参加者で話しあうというす

め方で行いました。

戦争の世紀といわれる20世紀を中心にした「世界の戦争」「東アジア近代の戦争・日本の加害など」について報告、みんな話しあいました。

話しあいでは、「戦争はなんでやるの?」「宣戦布告ってなに、どうやっておこなうの?」「終戦の時、自分の親は軍人で内地にいたが?」など、核心を突く質問もあり、リポーターは四苦八苦、そして宿題になったり:。  
また、報道されない「イラク

のこどもたちの被害実情」の映像、そして、エンディングにはイラクの子どもたちをバックに「戦争じゃなくて、ご飯がいい:」の歌がながされました。  
半数の参加者がアンケートを書かれ、「資料あり、映像あり、参加者の話あり:とてもいい」「回を重ねて、ますますいい会

がひらけている:」とおほめの声もあり、手抜きのできない次回を1月17日(土)の午後に行います。

(大野)

## 小山・幸町九条の会 憲法講演会開かれる

11月16日小山・幸町九条の会が自由法曹団の萩原健太弁護士を招いて講演会を催した。

二十余名参加して、はじめにオカリナ伴奏で唱歌を合唱し、紙芝居での憲法の理念の訴えに共感があったところで、萩原弁護士

の講演。  
憲法否定のクーデター田母神論文の話から始めて、新自由主義が揺らぐ世界情勢と海外派兵をめぐる日本の政界の情勢全般にわたって言及された上で、講演の主テーマ『派兵恒久法』の内容とそのねらいについて詳細な解説がされた。次いで「壊憲手続法」の違法性を具体的に指

摘されて、最後に改憲阻止運動に求められる認識の広がりとおほめの必要性を強調された。若く熱意あふれる講演であった。  
質疑のあと、自由に討論し合う小集会の大切さを訴えた挨拶があつて閉会した。

(市村)

## 前沢・南町9条の会 「第2回憲法を読む会」

連続講座「憲法を読む会」第2回を、12月14日(日)に南部地域センターで開催されました。講師は元都立大講師の塚田勲先生(滝山在住)にお願いし、16名の参加者(前沢・南町・南沢)の家族的な雰囲気の中、2階講習室で始められました。

前回と同様のクイズ形式を取り入れた講師の塚田先生手作りの資料の最初の問題は、1894年(日清戦争)から1945年(日本敗戦)の51年間で日本が戦争をしていない年

は全部で何年でしょうか？でした。先生の作って頂いた年表を数えてみると、たった13年でした。その後、63年間日本が戦争をしなかったのは、平和憲法があつた為と再確認しました。太平洋戦争に使われた戦費は当時のGNPの98%と信じられない額を投じていました。

戦後、日本が驚異的な復興をして世界第2位の経済大国に発展したことは、この平和憲法なしでは考えられません。

最後に、「イラク派遣」と「国際貢献論」に痛打を浴びせた名古屋高裁判決について詳細に説明して頂きました。

次回は2月8日(日)の予定です。

(矢澤)



## 「ミニ講演」

世話人会でお互いが学びあうという意味で、もちまわりで、自身の「仕事、生き方」などを紹介しあうことになりました

第1回・11月8日

岸亮夫さん(ピアノ調律士・キリスト者9条の会)

岸さんは、1941年8月に生まれ、その年の12月に太平洋戦争が始まりました。終戦後、従軍していたお兄さんが抜け殻のようになって帰還したこと。自分が小学校5年のときに豊職人だった父が両足切断の交通事故故にあい、貧困のなかで、キリスト教を求めていったこと。ピアノ工場で働き、25才でピアノ調律の仕事で独立したことなど、一生懸命生きてきた岸さんの半生がその時代の背景とともに話されました。

小泉首相が国民の心の問題に口出しをし、行動するようになって危機感を持ち始めていた

とき、東久留米九条の会発足の案内をもらい、この運動に参加したと締めくくりました。

第2回・12月13日

高田桂子さん(児童文学作家)

1945年8月14日(終戦の前日)に生まれ、平和についての思いは小さい頃から何となく意識の中にあつたように思う。

父の妹は、原爆投下の翌日、友だちを捜しに広島に入り、二次被爆し、また弟もシベリア帰りで早死にするなど親戚が薄いが、父も母も最後まで、「自分より幸せ者はいない」「ありがとう」とつらさの中でも言い続け、後に続く人間に希望を残してくれた。苦しくても、こういうふうに住んでいこう。息子が「おじい、おばあと一緒にいると心が洗われる」と言った。年寄りが子どもたちの守りになる、子どもと老人につながるものがある。「老人と孫のはなし」は、全国学習本になった。家族であれ、地域であれ、世

代間をどうやってつないでいくか。まわりには、本当に大事だと思っている人がいるんだということ子どもに日々の生活の中で伝え、親が支えられないときは、おじいさん、おばあさん、まわりの人が支えていく。そういう形で『平和』を伝えていくこと。「九条を守るう」だけでは伝わらないのではないか。

### お知らせ

#### ◆南部九条の会

「今聞く 四方和夫さんの88年」  
～現在も共産圏との貿易に情熱を傾ける、四方さんを囲んで～  
2009年1月12日(月)  
南部地域センター 1階和室  
午後2時～4時  
参加費 200円

#### ◆「西部九条の会」

連続講座「語りあおう 今と憲法」  
2009年1月17日(土)  
西部地域センター3階 講習室2・3  
午後2時～4時(参加費・無料)

#### ◆前沢・南町九条の会

「憲法を読む会」第3回  
2009年2月8日(日) 予定